環境経営レポート

エコアクション21
認証番号 0002817

有限会社　飯田製作所

福島第2工場　太陽光発電システム（自家消費）375.6kw（2023年8月 20kw増設）

横浜本社

福島工場　太陽光発電システム(売電）49.5kw

2023年度　（期間：2023年4月～2024年3月）

発行：2024年5月13日

目　次

1.事業活動の概要

1-1.　会社概要（対象範囲　事業の規模）
1-2.　沿革
1-3.　環境経営組織図及び役割・責任・権限表

2．環境経営方針

3．今までの環境目標と今期実績及び評価

3-1.　環境目標と今期の実績及び達成状況（共有活動実績）
3-2.　環境経営計画実績と評価

4．過去の実績との比較

4-1.　二酸化炭素排出量の削減比較
　　電気・ガソリン等・ガス使用量の削減比較
4-2.　産業廃棄物排出量の削減比較
　　水使用量・化学物質の削減比較

5．全体の活動内容

5-1.　省エネ・節電対策取り組み
5-2.　自然エネルギー活用　太陽光発電実績
5-3.　ガソリン使用量削減取り組み
5-4.　水使用量削減
5-5.　産業廃棄物削減取り組み
5-6.　化学物質削減取り組み
5-7.　防災訓練（AED取扱い教育）
5-8.　グリーン活動
5-9.　社会貢献活動・表彰

6．これからの環境目標と次年度取り組み

7．環境関連法規への違反、訴訟等の有無

8．代表者による全体評価と見直し

1. 事業活動の概要

1-1. 会社概要（対象範囲・事業の規模）

□ 有限会社 飯田製作所

□ 資本金　　5,000万円

□ 代表者名　　代表取締役　　野渡　透一

□ 認証登録範囲

本　　社　　（ＥＡ２１認証登録：取得日 2015年8月　番号0002817）
〒245-0018　　横浜市泉区上飯田町823番地

福島工場　　（ＥＡ２１認証登録：取得日 2008年8月　番号0002817）
〒969-1203　　福島県本宮市白岩字埋内120-2

福島第２工場　（ＥＡ２１認証登録：取得日 2010年8月　番号0002817）
〒969-1204　　福島県本宮市糠沢字水上21-2

□ 環境管理責任者

渡辺　隆　（生産技術課　課長）

□ 連絡先

福島第２工場
電話　　0243-64-2320　（代表）
FAX　　0243-64-2571
HP　　https://iidaf.com/

□ 事業内容

輸送機器部品製造（フッ素樹脂、エンジニアリング プラスチック）

□ 事業活動（認証登録範囲）

産業機械・自動車用の樹脂製パッキンシール、オイルシール等の製造

□ 事業規模（2023年度）

工場	従業員数	敷地面積（㎡）	延べ床面積（㎡）	生産金額	生産個数	備考
横浜本社	2名	1,227	466	ー	ー	LAB
福島工場	11名	5,800	1,920	0.14億円	19万個	電子、医療機器製造
第2工場	155名	14,200	2,407	22.2億円	1,046万個	輸送機器部品製造

※2023年3月31日現在

1-2.　沿革

1960年10月	創業者　野渡清利　（野渡精機製作所を創業）
1964年7月	有限会社飯田製作所創業
1988年1月	福島工場操業開始
1989年12月	福島工場　第２棟増築
1998年11月	福島工場　第２棟増床増築
2005年6月	福島工場　管理棟増築
2006年6月	福島工場　第２棟増築
2008年9月	福島第２工場　竣工・操業開始
2012年8月	福島第２工場　2棟　増築・操業開始 太陽光発電97KW設置
2015年10月	福島工場　太陽光発電システム設置　容量：57kw
2020年6月	福島第２工場　３棟　増築・操業開始。 太陽光発電97KW設置
2020年8月	福島工場が福島第２工場へ集約 福島工場　稼働停止
2023年8月	福島第２工場 太陽光発電システム増設20kw
2023年11月	福島工場　生産開始　（射出成型・金型製作）

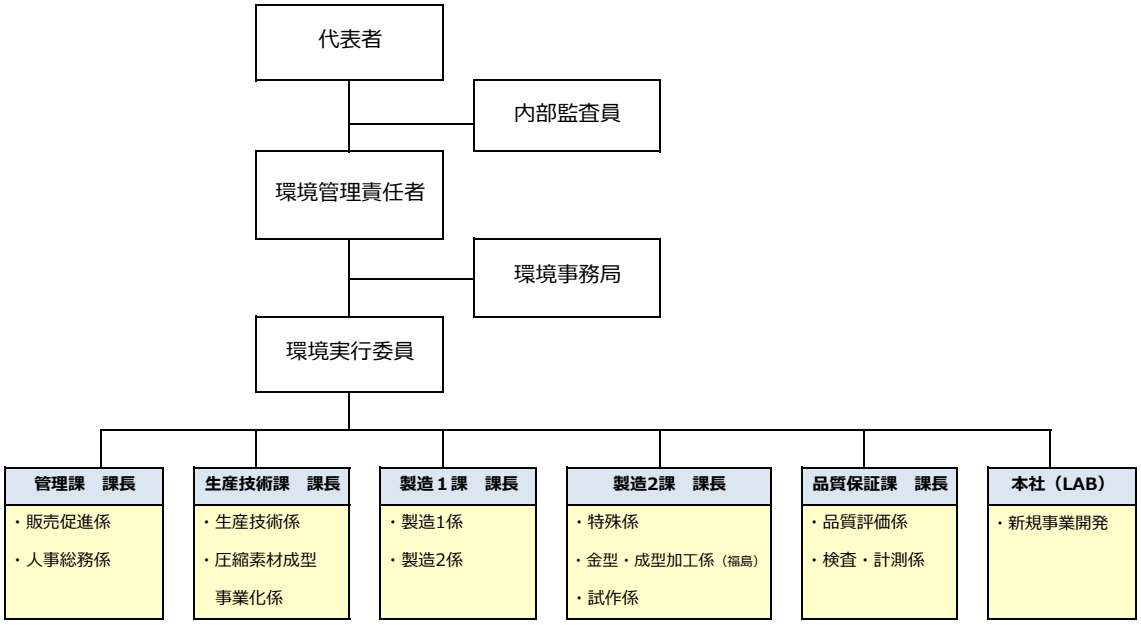
本社

福島工場

福島第２工場

福島第２工場　（増築）

1-3.　環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備
	・環境管理責任者を任命
	・環境経営方針の策定・見直し
	・環境経営目標・環境経営計画書を承認
	・代表者による全体の評価と見直し、指示
	・環境経営レポートの承認
	・課題とチャンスを整理し、明確化する
	・効果的で必要十分な実施体制を構築する
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理
	・環境関連法規等の取りまとめ表を承認
	・環境経営目標・環境経営計画書を確認
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告
	・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、の事務局
	・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
	・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成
	・環境活動の実績集計
	・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理
	・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
	・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
環境実行員	・環境経営計画の審議
	・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知
	・自部門の従業員に対する教育訓練の実施
	・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
	・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施
	・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成
	・試行・訓練を実施、記録の作成
	・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査員	・環境に関する内部監査の計画
	・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性の自覚
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動への参加

2. 環境経営方針

【基本理念】

企業理念に基づき全社員が業務を通じて省エネ、省資源、リサイクルの推進、廃棄物削減を自主的、継続的に推進しSDGｓ活動の趣旨を常に意識し、地球環境の保護に努める。

【行動方針】

1. 製品製造に関わる環境側面のうち、次の項目を
環境管理重点テーマとして取り組みます。

(1) 二酸化炭素の排出量削減
照明や空調等を見直し、製造・工場設備の省電力・効率化をする。
※管理時間見直し、遮熱・排熱管理で廃棄エネルギーの減少化検討
※実データでの管理を意識し、廃棄エネルギーの減少化を実現する。

(2) 廃棄物の排出量削減
廃棄物の分別収集を意識して、資源の３Rに努め、結果に繋げる。

(3) 総排水量の削減
水を効率的に利用する為に設備等の工夫・メンテナンスをする。
※雨水等廃棄水の再利用方法の検討

2. 関係する環境関連法規を遵守します。

3. 化学物質の削減及び、適正管理に努めます。

4. 環境負荷軽減することが当然であるとの認識してもらえる
機会を設け社員と共に働きがいのある職場づくりに努める。

5. 環境方針は全従業員に周知させるとともに、実施している
取り組みをホームページ等を通じ判り易く社外へ公表します。

改定　2024年4月1日

有限会社　飯田製作所
代表取締役社長　野渡透一

3. 今までの環境目標と今期の実績および達成状況

環境方針	環境目標	単位	年度	実績			
				2020年度（基準年度）	2021年度	2022年度	2023年度（0.496）
二酸化炭素の排出量削減	二酸化炭素の排出量削減	t	目標	1,538	1,528	1,294	1,263
			削減率	ー	ー	△17%	△19%
			実績	1,559	1,327	1,394	1,297
			原単位 t-CO2/万個	0.15	0.109	0.12	0.12
			達成状況	未達成	達成	未達成	未達成
	電力使用量の削減	kwh	目標	ー	ー	ー	2,626,828
			削減率	ー	ー	ー	
			実績	2,879,961	2,814,984	2,865,398	2,789,245
			原単位 kwh/万個	278	232	249	249
廃棄物の排出量削減	廃棄物等総排出量削減	kg	目標	178,977	136,504	135,125	133,747
			削減率	ー		△2%	△3%
			実績	137,883	178,623	154,474	144,426
			原単位 kg/万個	13	15	13	13
			達成状況	達成	未達成	未達成	未達成
	廃棄物のリサイクル向上	%	目標	ー	ー	ー	50.0%
			向上率	ー	ー	ー	ー
			実績	9.2%	21%	47.2%	63.3%
			達成状況	ー	ー	ー	達成
総排水量の削減	水使用量の削減	㎥	目標	1,947	1,927	1,908	1,888
			削減率	ー	ー	△2%	△3%
			実績	1,830	1,982	2,058	1,391
			原単位 ㎥/万個	0.18	0.16	0.18	0.12
			達成状況	達成	未達成	未達成	達成
化学物質の削減及び、適正管理	化学物質使用量の適正管理	kg	目標	377	373	369	253
			目標	ー	ー	△2%	△33
			実績	377	549	256	176
			達成状況	達成	未達成	達成	達成

※2020年8月に福島工場から第2工場へ生産設備を移管した為、2020年度の実績から福島工場、第2工場、本社を合算見直しています。
※二酸化炭素の排出量目標について、2021年度に大幅に目標を達成している事から、削減率目標の見直しを行っています。
※2022年度より、生産変動によって達成目標に左右されるため、総量型目標と原単位で評価します。
※2022年度より、産業廃棄物総排出量削減の達成目標にリサイクル率の目標を追加しました。

3-1.　環境経営計画取り組みと評価

環境経営方針	取り組み事項	実施内容 実施：○　検討要：△　未実施：×	評価	SDG s
二酸化炭素の総排出量削減	電力消費量の削減	節電活動の推進 廃熱利用・こまめ消灯・温水器利用停止・設備の不要電源OFF・電気機器不要見直し	○	
	設備効率運転維持管理	コンプレッサー定期　オイル・エレメントフィルター清掃交換	○	
	空調の老朽化更新	1棟空調の空調更新	○	
	エアコン・空調効率運転による電力削減	エアコン効率運転（トップエコ導入）	△	
		ピークデマンド削減（超過）対策	○	
		未使用時の設備・測定機器電源Off	○	
	自然エネルギー活用	太陽光発電システム点検・増設	○	
	NC旋盤の試運転改善	試運転プログラム化	○	
	ガソリン燃料の削減	社有車保有台数適正化（△2台） エコドライブ指導（ポスター掲示）	○	
		在宅勤務推奨による燃料費削減	○	
産業廃棄物総排出量の削減	産業廃棄物の分別によるリサイクル化	マニフェスト管理と産業廃棄物の総量削減	○	
		コピー用紙、新聞、雑誌、カタログ、パンフレットリサイクル実施	○	
		廃プラ材のリサイクル拡大	○	
		ペットボトルキャップリサイクル ※ポリオワクチンに貢献	○	
総排水量の削減	水使用量の削減	水道メータ検針（毎日）による使用量の把握	○	
		流し台・流し台・野外水道・冷却等の水漏れ点検実施	○	
関連する環境法遵守	環境法令順守	法とりまとめ表による点検実施・定期巡回点検	○	
化学物質削減及び適正管理	化学物質削減	溶剤再生機導入による削減（廃棄物削減）	○	
	適正管理	化学物質の把握	○	
社会貢献	社会貢献活動	ペットボトルキャップリサイクル ※ポリオワクチンに貢献	○	
環境方針の周知	社員への周知	環境方針のカード配布・毎月環境実績報告、新人教育実施	○	

4.過去の実績との比較

4-1.二酸化炭素排出出量の削減実績

項　目	単位	目標値	実績	達成度（%）
二酸化炭素総排出量	CO_2-t	1,263	1,297	97%
電気使用量	kwh	2,626,828	2,789,245	94%
原単位	CO_2- t /万個	前年度実績 0.120	0.110	前年比 109%
生産個数	万個	前年度実績 11,512	11,187	前年比 97%

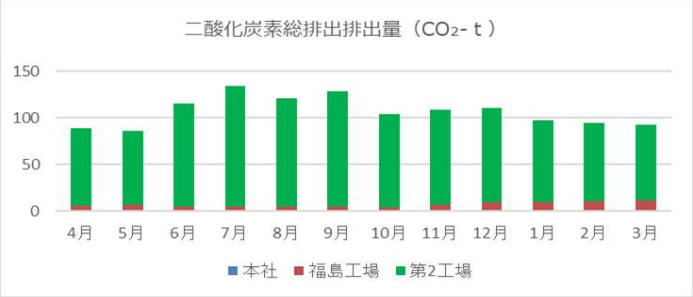
100%以上　60%以上　60%未満

※C02原単位評価追記

2020年度～2023年度実績

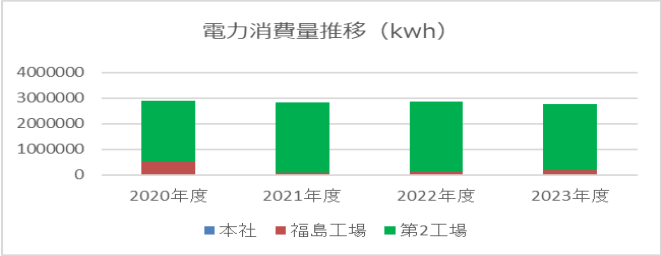
■2020年8月　第2工場3棟増築し福島工場統合。

2023年度　月別推移



■福島工場が11月～射出成型、金型製作生産立ち上げにより増加している。

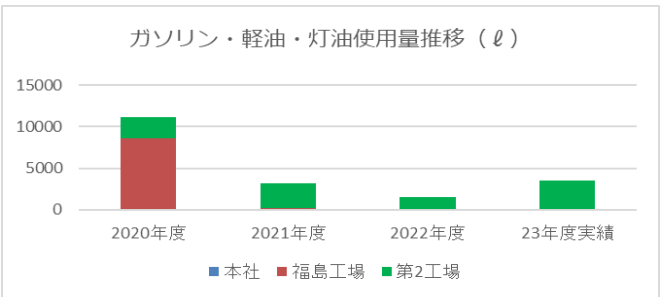
【電力使用量】



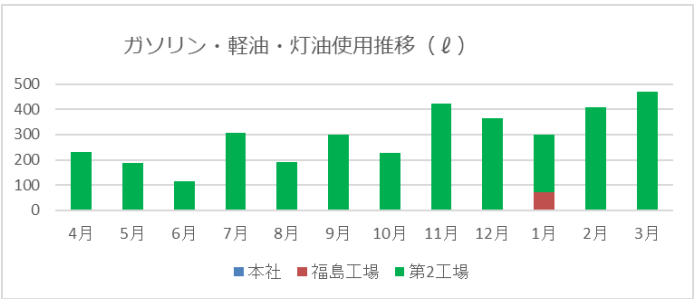
■2020年8月から福島工場の稼働停止により電力消費が減った。

■福島工場が11月～射出成型、金型製作生産立ち上げにより増加している。

【ガソリン・軽油・灯油】

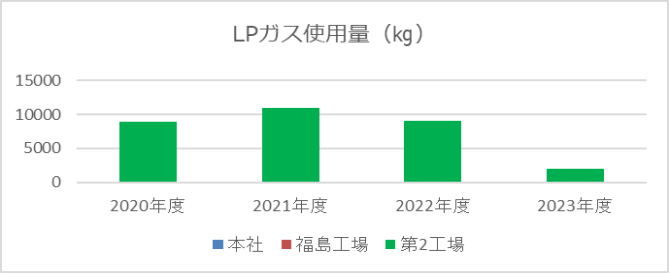


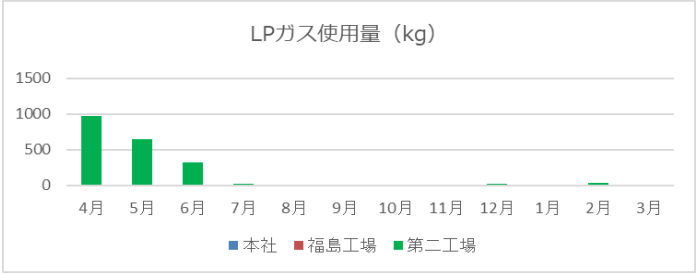
■2023年4月～納品業務再開（トラックの軽油使用量増加
使用量増加した。



■福島工場の稼働で 暖房ボイラー（灯油）使用増加しました。

【LPガス使用量】





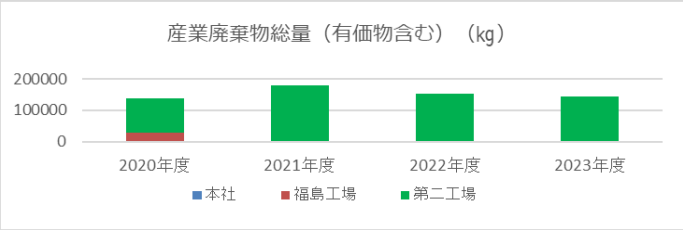
■第2工場1棟のLPガスボイラー老朽によりエアコン空調変更したため使用量が減った。（福島県事業者向け省エネ対策推進事業補助金利用）

4-2.　産業廃棄物排出量・水使用量・化学物質の削減比較

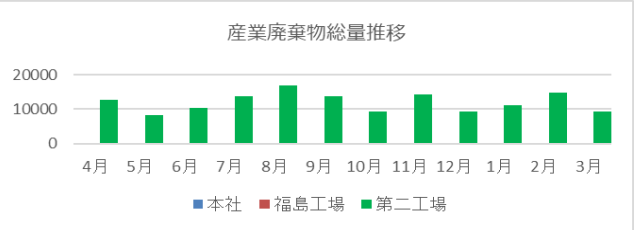
項　目	単位	100%以上　60%以上　60%未満			
		目標値	実績	達成度	
産業廃棄物総排出量	kg	133,747	144,426	93%	➡
原単位	kg/万個	前年度実績 13.0	12.9	前年比 101%	⬆
リサイクル率	%	50.0	63.3	127%	⬆
水使用量	㎥	1,888	1,391	136%	⬆
原単位	㎥/万個	前年度実績 0.18	0.12	前年比 150%	⬆
化学物物質購入量	kg	253	176	144%	⬆

2020年度～2023年度実績

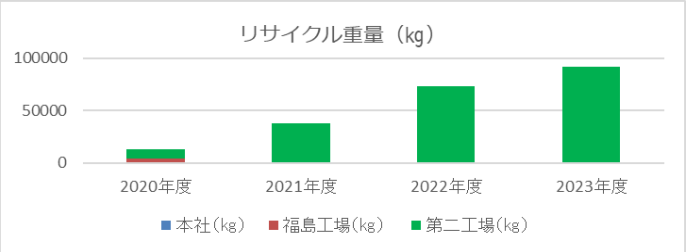
【産業廃棄物の総排出量】

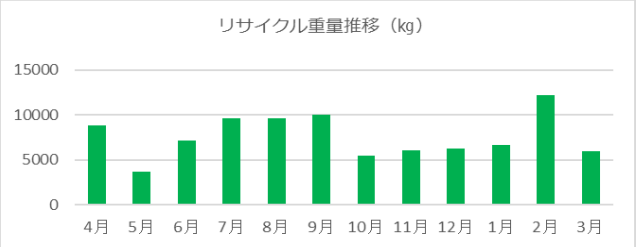


2023年度　月別推移



■22年～廃プラ埋立て処分を全てRPF（固形燃料）へ切替えました。

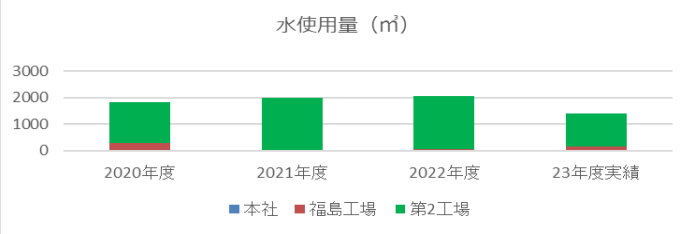


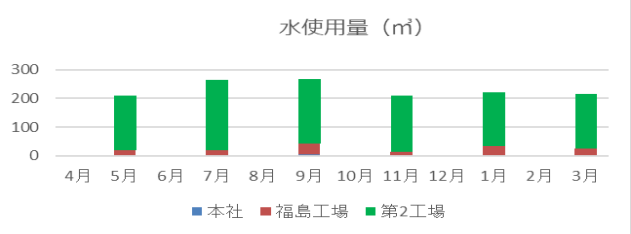


■PTFEリサイクルの拡大によりリサイクル率が向上した。

■OA機器・二次電池など新たにリサイクル推進を行った。

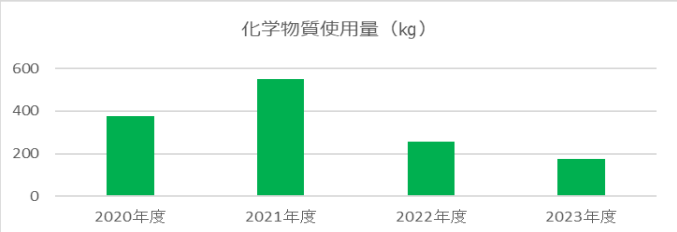
【水使用量】





■水道の検針メータの監視　漏水なし

【化学物質使用量】



■溶剤再生装置の導入、廃液を再利用し購入量を削減することができました。

■溶剤を使用する洗浄品目の流動が減ったため減少しました。

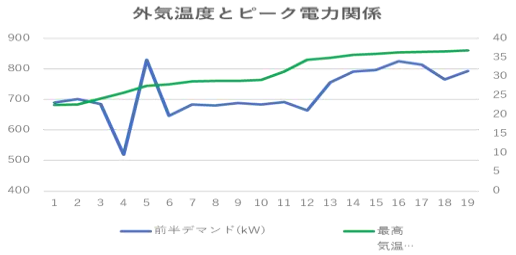
5.全体の活動計画

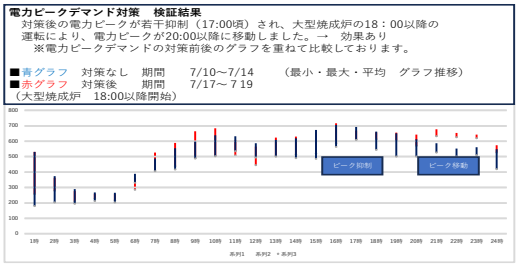
5-1.　省エネ節電対策取り組み

（1）ピークデマンド低減

夏季期間のピークデマンド抑制・超過対策するため、電力消費の大きい時間帯や温度変化によるピーク時の電力を調査し、夕刻のピーク電力を抑えるため、製造部門の協力のもと電力消費が大きい電気炉の稼働開始時間を変更する等の対策を行い**デマンドを前年比△６%の削減**することができた。（次年度に電力使用容量変更予定している）

ピークデマンド調査





（2）第2工場　1棟空調機器の老朽化更新

電気エアコン・暖房ガスボイラー機器の老朽化のため、今回業務用エアコンを導入しました。

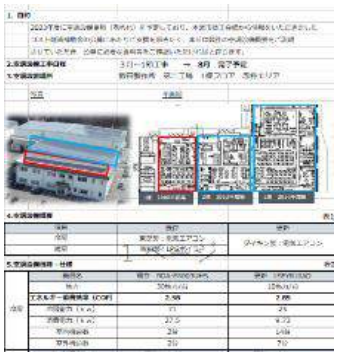
旧設備に対して約8%の省エネ効果が得られました。**（福島県中小企業等経営コスト削減支援補助金利用）**

※効果はLPGと電力のエネルギー消費量（MJ）に換算し計算しております。

老朽　ガスボイラー1台

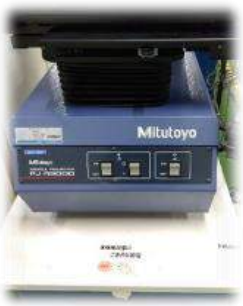
新規　業務用エアコン　7台

商工会の補助金申請の支援を頂き申請



（3）みんなで節電アクション　（全部署）

東北電力様の「夏の節電アクション」にエントリーし、みんなで節電、本気で節電に取り組みました。

温水器利用停止 期間６～10月	便座ふた解放禁止	電気機器プラグ 待機電力削減	昼休みの照明機器 一斉消灯	計測器のこまめ電源OFF
				

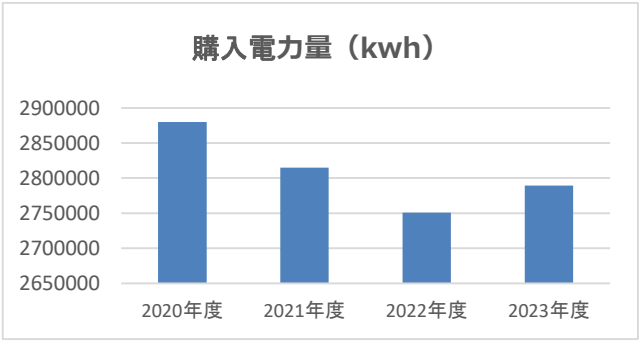
5-2.　自然エネルギー活用　太陽光発電実績

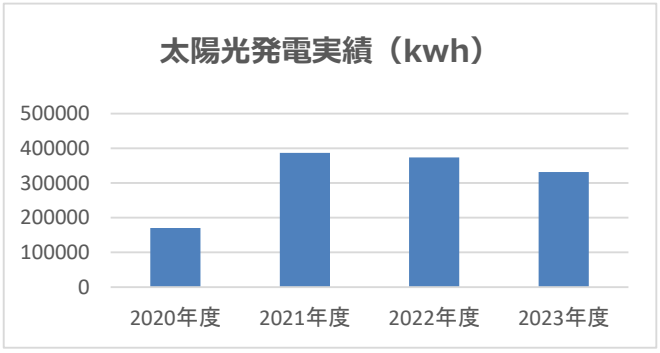
（1）太陽光発電システム利用

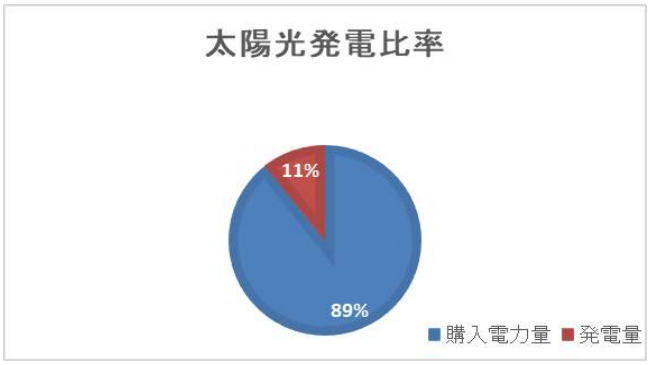
太陽光発電システム増設　21.45kw
2022年3月　太陽光パネル設置完了
2023年８月　発電開始

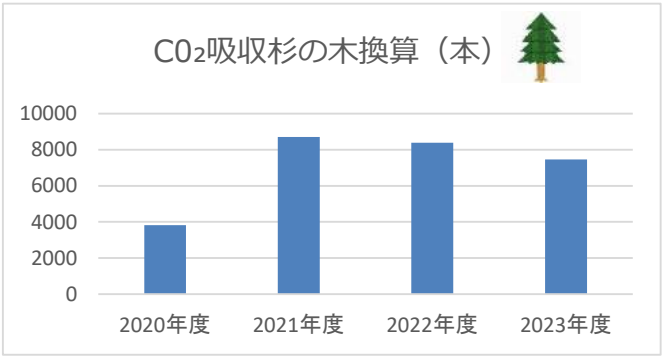
①購入電力量と太陽光発電量の推移

2023年度は、332,000kWhを発電。（工場稼働　32日分に相当）
二酸化炭素削減量：104,414kg-CO2/年　（変換係数0.3145kg-CO2/1kWh）
※太陽光発電　前年度比　△11%低下　福島工場　自然災害落雷による故障停止（部品調達含め3か月停止）









※杉の木　CO2吸収 14kg/年で計算

（2）日常の監視　（生産技術係）

太陽光監視システムにて日々の発電量を監視し、異常時の早期発見に努めております。
※福島工場の遠隔監視を新たに導入し、2023年11月～監視を開始しました。

5-3. ガソリン使用量の削減

（1）交通安全点検【継続】　（安全衛生委員会）

交通安全週間に構内乗り入れ速度、シートベルト、ゆとり出勤などの点検
エコドライブ（急発進・急停止、急ハンドル）を呼び掛けしております。

（2）在宅勤務推奨【継続】　（安全・人事係　業務・システム係）

BCP一環として在宅勤務インフラ（WEB会議・勤怠・購入システム導入・ノートPC切替）整備し、在宅勤務を推進してきました。

＜在宅勤務導入の目的＞
・緊急事態による出勤や災害等により通勤困難な場合でも業務を継続し事業継続性を向上させる

5 -4. 水使用量の削減

（1）節水活動【継続】　（全課）

水道蛇口水量の調整による節水や水使用量把握、漏水などの異常早期発見に努めみんなで節水に取組みました。

【水量調整による節水】

【みんなに知ってもらって】

【みんなで節水】

5-5．産業廃棄物ミニマム化

（1）廃プラの埋め立て削減　（製造課・生産技術係）

【廃プラ埋め立て処分】
2022年度　0ｔ

切替

【RPF　固形燃料】
2023年度　6.9ｔ/年
※燃料として再利用されます

某製紙会社様
RPF（固形燃料）

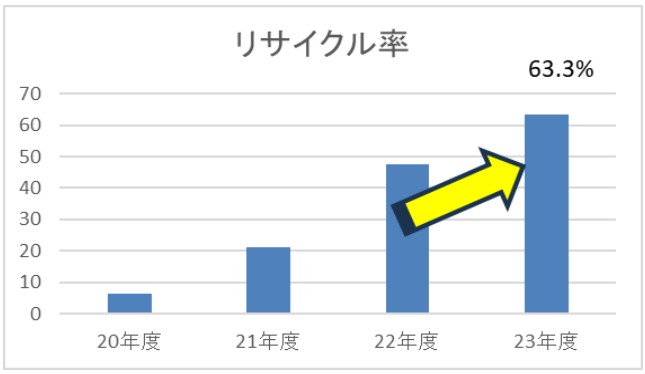
（2）PTEF廃棄方法の改善　（製造課）

PTFE切粉を回収すると綿上にふわふわして体積が大きくなるため、圧縮機で圧縮してから廃棄しています。運搬コスト削減につなげています。

圧縮機　→　PTFE圧縮(体積減)　→　鉄カゴ回収　→　収集運搬

（3）廃プラのPTFE材リサイクル拡大　（製造課 ・生産技術係）

PTFE材質毎に（現在10種類）フレコンバックに分別回収しています。
23年度は新たに3種類のリサイクルが可能になりました。各業者様と情報交換を行い今まで産業廃棄物としていたものがリサイクル可能となり、こまめに分別しリサイクル拡大することができた。



（4）リサイクル推進　(製造課・管理課・生産技術係)

金属類・非金属、古紙など種類ごとに分別しリサイクル推進に努めております。

【金属類・OA機器・古紙等】

【機密情報漏洩対策】

記憶媒体（HDD）はデータを消去後、お引き取りして頂き業者より廃棄証明書を発行して頂いております。

5-6.化学物質使用量削減

（1）溶剤再生機運用 【継続】（製造課）

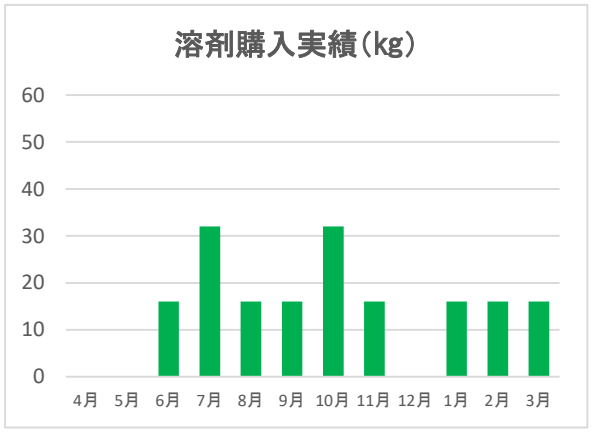
【溶剤再生機】

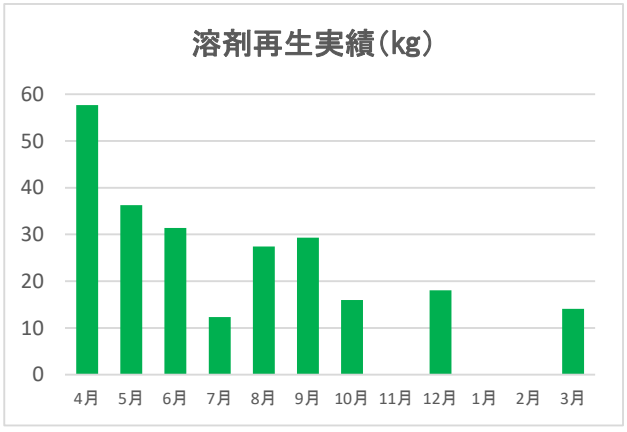
項目	【再生前廃液】	【再生後】
色合い	茶色（新液：無色透明）	無色透明
物性	ー	新液と同等
溶剤写真		

※バッチ式　自動運転で20ℓ再生で約1時間終了します。

（2）溶剤購入と再生実績

廃液を再利用できたことで、購入量を242kg（前年比）を削減することができました。





5-7.防災訓練・教育

(1)総合防災訓練

安達地方消防様に派遣していただき、総合防災訓練（通報訓練・消火訓練・救護）を行いました。

【通報訓練】

【消火訓練】

【救護訓練】

(2)緊急事態対応訓練　アルカリ廃液槽タンクの廃液流出

【側溝流出防止】

【土嚢関止め】

【ポンプ準備】

【ポンプ廃液回収】

【ポンプセット】

【廃液回収】

（3）AED取り扱い及教育

2021年度にAEDを1台設置しました。AEDの取り扱い方法（反応の確認、呼吸の確認等）について全従業員の教育訓練を実施しております。　24年3月現在　教育訓練　180名実施。

【AED設置】

【教育・訓練人形で体験】

5-8.　グリーン活動

（1）グリーン活動

会社周辺の調整池や道路や工場内の草刈り、側溝清掃、ごみ拾いなどの美化活動を行っております。

草刈作業

今年度は天候がよく雑草の成長早く、草刈り作業を４回（5月、6月、8月、10月）実施、休日の早朝から行いました。

側溝清掃

側溝に落ち葉が山積し雨水の流れが悪かった(一輪車7台分の汚泥を回収しました)

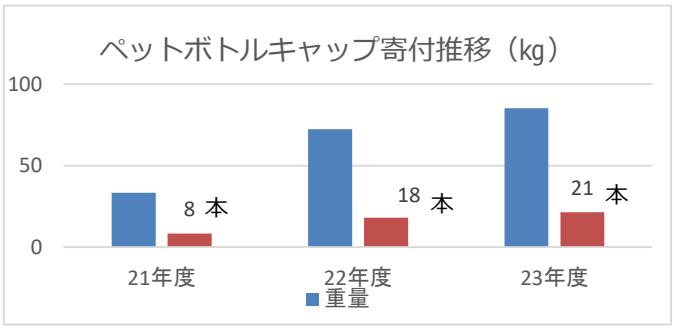
5-9.貢献活動・表彰

(1)社会貢献

サイコー様（仙台）のエコキャップ運動に2021年6月から34ヵ月連続参加しております。

2023年度実績　85kg（ペットボトルキャップ約3.6万個）➡ポリオワクチン21本分寄付

【回収スタート】



(2)表彰

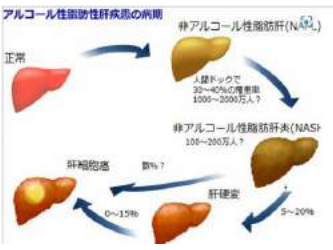
健康経営の認定証：23年も継続認定賞をいただきました。

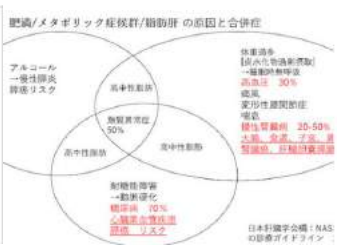
2022年 認定賞

男女を問わず連続5日以上の育児休業を取得するようルール化し、 2021年度以降、男女とも100%取得を達成。またコロナ過で親睦を深めるきかっけを掴みにくい従業員同士のコミニュケーション創出の一助として、従に消防団活動に参加することとなった場合、その時間は通常出勤として取り扱い、支障なく参加できるよう後押し。これらのユニークで特徴

2023年 継続認定賞

（3）健康予防　産業医先生連載





6.これからの環境目標

環境方針	環境目標	単位	年度	実績				達成目標	中期目標	
				2020年度（基準年度）	2021年度	2022年度	2023年度（0.496）	2024年度（0.477）	2025年度	2026年度
		万個	生産数	10,373	12,129	11,512	11,187	9,796	ー	ー
二酸化炭素の排出量削減	二酸化炭素の排出量削減	t	目標	1,538	1,528	1,294	1,263	1,232	1,216	1,201
			削減率	ー	ー	△17%	△19%	△21%	△22%	△23%
			実績	1,559	1,327	1,394	1,297		ー	ー
			原単位 t-CO2/万個	0.15	0.109	0.121	0.116	0.11	ー	ー
			達成状況	未達成	達成	未達成	未達成			
	電力使用量の削減	kwh	目標	ー	ー	ー	2,626,828	2,556,981	ー	ー
			削減率	ー	ー	ー			ー	ー
			実績	2,879,961	2,814,984	2,865,398	2,789,245		ー	ー
			原単位 kwh/万個	278	232	248.9	249.3		ー	ー
廃棄物の排出量削減	廃棄物等総排出量削減	k g	目標	178,977	136,504	135,125	133,747	132,409	131,085	129,774
			削減率	ー		△2%	△3%	△4	△5%	△6%
			実績	137,883	178,623	154,474	144,426		ー	ー
			原単位 kg/万個	13.3	14.7	13.4	12.9		ー	ー
			達成状況	達成	未達成	未達成	未達成		ー	ー
	廃棄物のリサイクル向上	%	目標	ー	ー	ー	50.0%	65.0%	67.0%	69.0%
			向上率	ー	ー	ー	ー	2%	4%	6%
			実績	9.2%	21%	47.2%	63.3%		ー	ー
			達成状況	ー	ー	ー	達成		ー	ー
総排水量の削減	水使用量の削減	㎥	目標	1,947	1,927	1,908	1,888	1,320	1,307	1,293
			削減率	ー	ー	ー	ー	△5%	△6%	△7%
			実績	1,830	1,982	2,058	1,391		ー	ー
			原単位 ㎥/万個	0.18	0.16	0.18	0.12		ー	ー
			達成状況	達成	未達成	未達成	目標達成		ー	ー
化学物質の削減及び、適正管理	化学物質使用量の適正管理	k g	目標	377	373	369	253	249	245	242
			目標	ー	ー	△2%	△33	△34	△35	△36
			実績	377	549	256	176			
			達成状況	達成	未達成	達成	達成			

※2020年8月に福島工場から第2工場へ生産設備を移管した為、2020年度の実績から福島工場、第2工場、本社を合算見直しています。
※二酸化炭素の排出量目標について、2021年度に大幅に目標を達成している事から、削減率目標の見直しを行っています。
※2022年度より、生産変動によって達成目標に左右されるため、総量型目標と原単位で評価します。
※2023年度より、産業廃棄物総排出量削減の達成目標にリサイクル率の目標を追加しました。
※水使用量達成目標見直し。2023年度を基準として△5%削減を目標とする。

6-1. これからの取組み

施	策		計画	対象	責任部門	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減	1	電力消費容量の削減	6月	第2工場	生産技術課 製造1課	・契約電力容量変更申請 ・ピークデマンド監視と対策 ・2棟空調老朽化更新
	1	コンプレッサー効率運転	通年	第2工場	生産技術課	・計画に沿って定期的点検及び整備 （オイル交換、フィルタ交換、清掃等）実施 ・空気圧縮機のエア漏れ点検(作業場、生産設備等)実施 ・コンプレッサー圧力設定見直しによる省エネ
	2	省エネ、節電推進	通年	第2工場	各課	・昼休み時間の集塵機停止　（照明一斉消灯） ・喫煙所エアコン利用停止 ・温水器利用停止（6月～10月） ・待機電力削減
	3	電気・ガソリンの使用量削減	通年	第2工場	各課	・社有車の運行管理とエコドライブ推進 ・社内定期便廃止（運搬業務委託）
廃棄物の排出量削減	4	一般廃棄物の削減	通年	第2工場	各課	・リサイクル分別回収の継続実施
	5	産業廃棄物の削減	通年	第2工場	各課	・PTFE材のリサイクル化（対象材質の拡大） ・福島工場　射出材リサイクル化
水使用量の削減	6	水使用量の削減	通年	第2工場	各課	・水道メータ検針による異常早期発見 ・洗面・食堂・トイレ等の水漏れを定期的に点検 ・節水の啓蒙活動継続
化学物質使用量の削減	8	溶剤の使用量削減	通年	第2工場	製造１課	・使用済み溶剤の再生　購入量の削減
その他	9	緊急事態対応訓練	通年	第2工場	安全衛生委員会	・消防計画書により実施。 （安全衛生委員会活動による）
	10	地域社会貢献活動	通年	福島工場 第2工場	生産技術課	・美化運動、構内の側溝点検と清掃、草刈り・剪定実施 ・道路ゴミ拾い ・SDGs宣言

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

・自社の環境関連法規の違反はありませんでした。

法規制等の名称	順守事項	遵守事項
廃棄物処理法	委託基準（契約書・運搬許可証） マニフェスト交付・保存及び交付状況報告	遵法
浄化槽法	保守点検実施・法定点検実施	遵法
消防法	消防設備点検実施・総合防災訓練実施	遵法
フロン排出抑制法	簡易点検実施	遵法

・近隣からの苦情、関係機関からの指摘、及び訴訟等はありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直し

（1）全体評価

①二酸化炭素排出量削減については、主に電力消費削減を重点に省エネ活動に取組んだ結果、
目標達成には至りませんでしたが、前年度比△2.6%削減できました。
③産業廃棄物削減取り組みでは、前年度から取り組んでいるPTFEリサイクル化推進により、
リサイクル率の向上し目標達成することができた。
③今後益々、要求が上がる事は当然として、企業活動を継続するには、計画的な管理をしっかりして、
環境負荷の削減が必須なので、達成に向けた計画策定ができ、それに沿った実行で実績を
残すことができてきた。

（2）見直し

①環境負荷の取組
環境負荷の削減については、持続可能な自然エネルギー活用や電力料金の高騰していることから
継続的に省エネ活動及び電力コスト削減に取り組むこと。（電力容量見直しや新電力検討など）
②福島工場の射出成型・金型製作の稼働開始しており、環境負荷の実績を把握した上で
環境負荷低減に取り組むこと。
③実施体制
経営資源を活用しながら 組織を効率よく管理・運営してください
事務局で見直しが必要と考えられるものについては環境経営マニュアル、環境経営レポ ートに
反映させてください。
④環境関連法規の遵守
環境法令については改正の有無等の適宜チェックをお願いします。

2024年5月11日
(有)飯田製作所
代表取締役　野渡　透一